

「M-Cass」ビジネスに役立つ！財務分析入門Part 1

「M-Cass」で学んだ知識をさらにこの冊子を使って深めてみよう！

1. さまざまな業績評価の指標



ビジネスゲーム「M-Cass」では、各チームの勝敗を決めるにあたって、「自己資本利益率」という業績評価の方法を採用しています。ここで、どうしてこのような業績評価の方法があるのでしょうか？だって、そんな難しそうなる名前の計算方法ではなく、「儲けの大きさ」で業績を判断すればいいじゃない、そう思いますよね。

そこで、ここでは様々な「業績評価の方法」が存在する理由を簡単な例で確認してみたいと思います。

計算例

下記2つの会社のうち、どちらが業績評価がいいのか判断しなさい。



元手(資本金)100万円
儲け(利益)20万円



元手(資本金)1億円
儲け(利益)200万円

単純に利益の大きさだけでは会社の業績は測れない！

①利益の大きさを業績評価をすると



儲け(利益)20万円



儲け(利益)200万円

Congratulations!

②すくない元手でより多くの利益を出せたのか、という観点で業績評価をすると



元手100万円で
儲け(利益)20万円
20%の運用利回り

Congratulations!



元手1億円で
儲け(利益)200万円
2%の運用利回り

③どのような手段で多くの利益を出せたのか、という観点で業績評価をすると



本業に邁進して
儲け(粗利)20万円



本業はイマイチだが本社ビルが売却できて儲け(特別利益)200万円

Congratulations!

??どっちだろう..

財務分析の分析方法にはどんなものがあるのか？

2.分析方法の概要

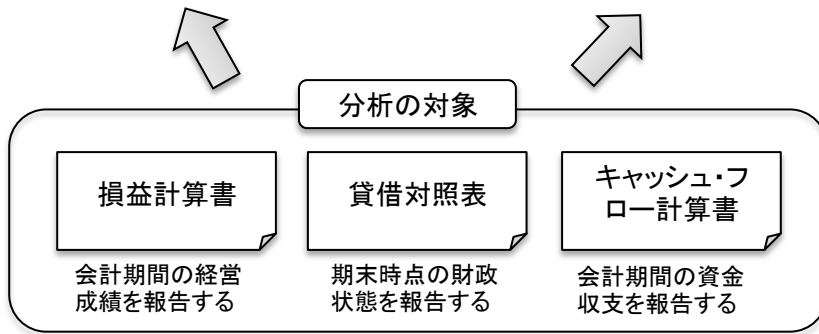
会計情報システムから提供される財務情報を主な分析資料として、企業や各種セグメント(地域別や製品別等の情報)に関する収益性、安全性、生産性、成長性などを分析することを財務情報分析といい、次に示すように様々な観点から分類することができます。

【分析の方法】

実数法	比率法
財務諸表の実際数値を使って分析する方法。実数のまま分析を行うので、分かり易く、精密な分析が行える。	比率を使って分析する方法。企業の規模等を問わず、普遍的に分析ができる。

【比較方法】

目標値比較	時系列比較	クロスセクション比較
比較対象は目標値である。例：目標利益率10%を超えたかどうか。	比較対象は過年度における数値である。	比較対象は同一時点における他企業の数値である。



下記2つがよく用いられる分析であるため、ここではこの2つをみていきます。

【分析の種類】代表的なもの

- ①収益性分析
- ②安全性分析
- ③成長性分析
- ④生産性分析
- ⑤資金分析等

収益性分析の基本的な考え方

利益は事業活動における資本の利用によって得られるため、収益性(利益獲得能力)は投下資本利益率(元手に対する利益の割合)により測定される。

$$\frac{\text{利益(儲け)}}{\text{投下資本(元手)}} = \text{投下資本利益率}$$

安全性分析の基本的な考え方

企業の支払能力がどの程度のものかを判定する。

短期の安全性分析

流動資産と流動負債のバランスで判定する方法
キャッシュ・フロー計算書の資金収支のバランスで判定する方法

長期の安全性分析

固定資産が長期の資金でどの程度賅われているかを判定する方法



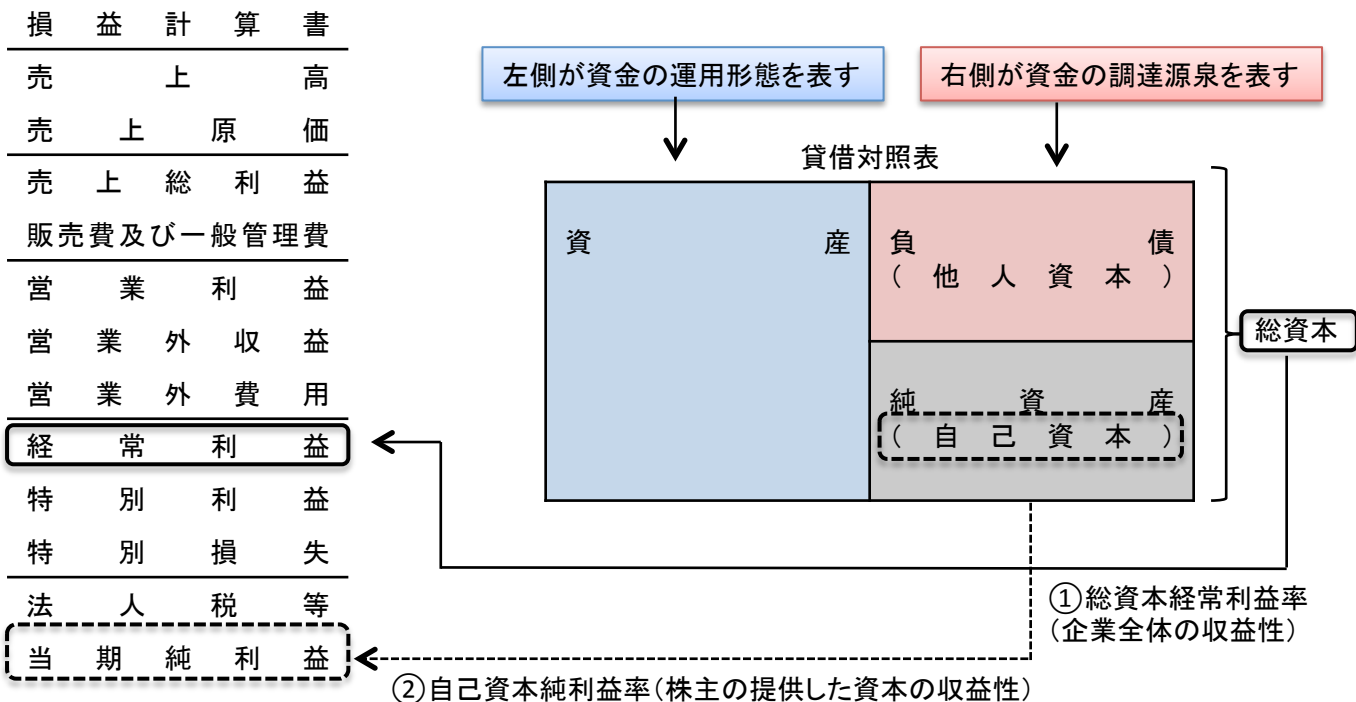
今回「M-Cass」ではこのうち①収益性分析に焦点を当ててゲーム上で学びました。

3.収益性の分析を学ぼう！

儲けが出ているからといって、「経営が上手いっている」とは限りません。会社の経営が上手いっているかどうかは、「どのようにして利益を出したのか」ということと、「元手を効率的に利用できたのか」ということをみていく必要があるのです。ここでは、「元手を効率的に利用できたのか」という「収益性分析」についてみていきます。

①収益性分析について

貸借対照表の右側は資金の調達先を表し、その運用の成果が損益計算書に表れます。このため、収益性の分析は貸借対照表と損益計算書との対比で行われます(ゲームで作成しましたよね!)。収益性の分析で代表的な指標が「資本利益率」です。これは、株主の持分である自己資本に対してどれだけのリターン(当期純利益)が生み出されているかを示す指標です。ROEは英語でReturn on Equityと表記され、リターン・オン・エクイティと読みます。なお、日本企業におけるROEは、平成25年度の全業種平均は7.9%と報告されています(経産省)。



①総資本経常利益率(企業全体の収益性)

$$\text{総資本経常利益率(\%)} = \frac{\text{経常利益}}{\text{総資本(年平均)}} \times 100$$

企業にとって、「体格」に当たるものは「総資産＝負債＋純資産」となります。企業は工場やビルなどの資産を保有しています。これらの資産をどれだけ有効に活用しているかを調べるのです。要は、保有する資産に対して、どれだけ経常利益を生み出したかを測ります。このように、利益に対する資産の割合をみた指標を総資産利益率(ROA)といいます。

②自己資本純利益率(株主の提供した資本の収益性)

$$\text{自己資本純利益率(\%)} = \frac{\text{当期純利益}}{\text{自己資本(年平均)}} \times 100$$

今回の「M-Cass」ではこの指標を使って皆さまに業績評価をしていただきました！

上記で総資産利益率(ROA)は「資産」での話でした。ただ、株主にとってみれば、出資した額に対してどれだけの利益を出したかが気になります。そこで、純資産に対してどれだけの利益を出したかを示す指標として「自己資本利益率(ROE)」があります。「投資したお金をどれだけ利益に変えたか」を表す指標が自己資本利益率(ROE)であるため、この数字は投資家(株主)に重要視されます。

4. さっそく財務分析をやってみよう！

ここまで、財務分析の概要をみてきました。では、さっそく実践編です。
ご参加いただいたビジネスゲーム内で経営していただいた、ご自身の会社の財務分析をやってみましょう。

利益の大きな会社が本当にエライのか？



A 社

当期純利益100万円



B 社

当期純利益1,000万円



B社の方が儲けが大きいから、業績は良いな。

ワーク

ビジネスゲーム内で経営した会社が、元手をいかに効率良く利用したのか、財務分析してみよう！

(1) 貸借対照表の金額をうめてみる

今回のビジネスゲームでは、「貸借対照表」と「損益計算書」という2つの決算書を作成していただきました。下記の貸借対照表に、ご自身が経営した会社の数値を入れてください。

貸借対照表

資 産	負 債
	借入金
	純資産
	資本金

金額入力のポイント

1. 負債の借入金の額を記入してください。
2. 純資産の資本金の額を記入してください。

(2) 損益計算書上の当期純利益を元手(純資産)で割って、自己資本利益率を算定する

$$\text{自己資本利益率} = \frac{\text{税引後当期純利益 (儲け)}}{\text{資本金 (元手)}}$$

<財務戦略のポイント>

資本金は大きすぎないですか？

資本金が大きすぎると、自己資本利益率は下がってしまいます。

このため、やみくもにお金を調達するのではなく、負債(借入金)の有効活用を考えてみましょう。

